

平成29年度新規事業（C型肝炎地域連携推進事業）

目的

○地域連携パスを運用し、C型肝炎ウイルス検査で陽性判定となったが継続的な受診をしないままにいるキャリアを確実に掘り起こし、かかりつけ医から肝臓専門医療機関に確実につなげる。

○肝臓専門医療機関による治療後も、定期的な観察を続け、治療後の病態悪化（肝がん発生）があれば、早期に治療につなげる。

○C型肝炎ウイルス陽性者の早期治療によるウイルスの排除を目指す。

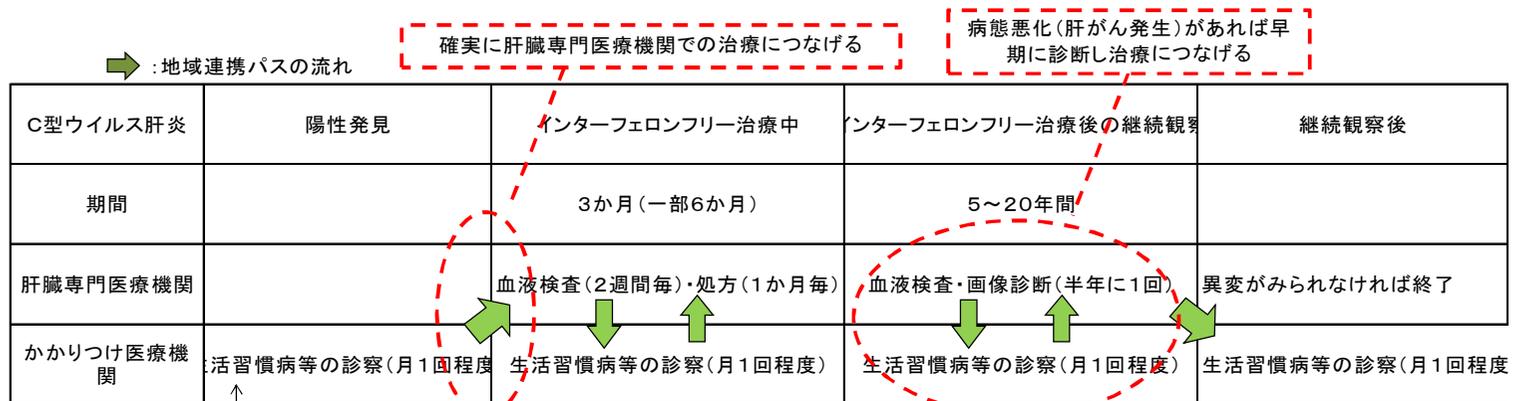
○治療後の肝がん発生の早期診断・治療を図る。

具体的方法

○肝疾患診療連携拠点病院に地域連携パスの運用を委託

- ・拠点病院にて、地域連携パスのフォーマットを作成
- ・拠点病院が地域連携パス協議会を開催。各地区医師会に対し、地域連携パスの運用を周知
- ・拠点病院が、連携パスの項目を集計（連携パス運用数・発がん数等）、協議会にて定期的に結果報告

診療の流れ（イメージ）



自らの医療機関で肝炎ウイルス検査を実施（または他医療機関で、肝炎ウイルス検査を受検したことを患者からきく）